

ホテル学校だより

新たな登山道案内看板！続々と制作進む



看板制作をきっかけに増えている鳥川ファン

地図やガイドなどが必須ですが、ルート上にしっかりとした案内看板が設置していると、安心して山歩きを楽しむことができます。現在、ホテル学校では鳥川ホテル保存会の皆さんや一般参加の方々と



ホテル学校で看板の制作に取り組む皆さん



講師の松本吉央さん

一緒に登山道の案内看板作りと設置作業を進めています。講師は松本吉央さんで、看板の材や杭の加工、コースの下見や看板制作の指導など熱心に活動を続けられています。「何とか元気なうちに全ルート of 看板を新しくして鳥川の魅力をたくさんの人に知ってもらいたい。」と語り、この1年半で全ルート of 半分ほどの看板の制作

と設置を行ってきました。この活動に共感してくださった「年金者里山歩きの会」の皆さんが「ぜひ協力したい」とのことで、毎回多くの会員の方が看板の制作・設置に参加してくださり、新たな交流も生まれています。これまで無名だったポイントにも新たに名称が付けられ、ますます山歩きの楽しみが増えてきました。



続々と新しくなる登山道案内看板

※看板には制作者名が刻まれています。

ホテル学校歳時記（No. 4）

カワニナに嫌われた日本の“野菜”たち

野菜は、葉菜類、果菜類、根菜類の三つに分けられる。恵まれた土壌でないと美味しい野菜は育たない。家畜が造成した堆肥がふんだんに混ざった柔らかい土壌が理想である。落葉と家畜の糞尿が作り出す野菜畑の土壌は先人が知恵と体験から生み出した素晴らしい文化だ。化学肥料と農薬で育てられた野菜の多くは、生物が要求する味には遥かに遠い。川底を生活場所に行っているカワニナは、移動する力が少なく流れ着いた食材で生活をし、選別や贅沢はしない。しかし良い物を選択する能力は人間以上である。堆肥の畑の野菜、化学肥料の畑の野菜を混ぜて与えても確実に選別するのである。香、味、食感、鮮度のどれに対しても敏感だ。



野菜本来の味を見分けるカワニナ

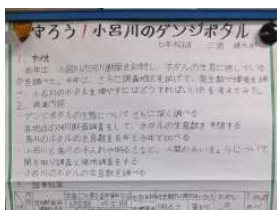
人間の食卓に出されたご馳走は、料理の達人でも区別は不可能に近い。舌、鼻、目の本来の能力が退化しているのだ。美味しいご馳走ほど後で食べるのが人間だが、カワニナは美味しい食品から食べだすのである。本当の味で勝負する作物づくりに戻りたいが無理だろうか。アトピーとかアレルギーの言葉が耳に届かない時代を早急に手に入れたい。こんな思いをちらつかせながら、野菜クズの流れに散布する昨今です。（ホテル学校名誉校長 古田 忠久）

ホタルの自由研究で金賞受賞

26年度の「ホタルマスターファミリー講座」を受講した子供たちが、夏休みにホタルの自由研究に取り組み、各学校で金賞を受賞しました。



三浦 健太郎君(6年生)



守ろう！小呂川のゲンジボタル



杉本 翼君(4年生)



ゲンジボタルの見られる所見つけた！



平野 凜音さん(3年生)



牧平のホタルを守れるか？

ホタルや生息環境について明確な「問題意識」を持ち、解決策を導き出し、保護活動への提案をするなど、成長の表れを実感しました。

県内各地で盛ん！ホタル保護活動

ホタル学校で毎月1回「ホタルサポーター活動（ホタル保護活動者養成）」を開催しています。その一環として平成26年10月26日（日）に「ホタル生息地バスツアー」と題して、県内2か所のホタル保護活動地を見学し、各地域の環境や取り組みなどについて学習を行いました。午前は刈谷市内でヘイケボタル



水質の管理やエサの安定補給が課題

の増殖に取り組む刈谷衣浦ライオンズクラブが管理するビオトープを訪問しました。宅地化が進み、ほとんどいなくなってしまったヘイケボタルの復活に期待が寄せられています。

午後は「イチョウ」で有名な稲沢市祖父江町を訪問し、祖父江のホタルを守る会によるヘイケボタルの保護活動について学習しました。岡崎市内でもヘイケボタルの減少は著しく、ゲンジボタルと同様に保護の必要性を実感しました。



現代農業と多様な生物との共存を目指す

ゲンジボタルの光は“6月”だけじゃない！



光りながら懸命に上陸する幼虫たち

今年度、初めてゲンジボタルの幼虫の上陸を4月19日に確認しました。鳥川ホタルの里の小安堂橋A～B地点では、過去に例を見ないほどたくさんの数の幼虫が上陸していたと地元の方が話しておられました。数百匹の幼虫が川岸で光っている様子はとても素晴らしい光景で、かつてないほどの興奮を覚えました。それまでの10日ほどは晴天続きで、久々に雨が降り、上陸を待ちわびた幼虫たちが一斉に行動を始めたようです。その他の地区はどこも数えるほどでした。その後も小安堂橋A～B地点は2～3回上陸する光景を見ました。その他の地点ではどこも少なく、特に毎年6月下旬に

ゲンジボタルがたくさん発生する「イヌハサ地区」は、4～5回見に行きましたが上陸する幼虫は少なく、6月の飛翔が心配でした。しかし、始まってみれば例年並みにたくさん飛んでくれたので一安心でした。今年度のホタルの飛び始めは、鳥川が5月24日で、支流の大原川（イヌハサ地区）では6月1日でした。普通「ホタル」と言えば6月ですが、実は4月の幼虫の上陸からその神秘的な光を楽しむことができます。（ホタル学校スタッフ）



成虫と違い、幼虫はお尻の左右が光る

【ホタル学校に関する情報はホームページ・ブログをご覧ください！】

★ホームページ…http://www.morinoeki.jp/hotaru_gakkou/index.html

★水とみどりの森の駅ブログ…<http://sizontaikenmori.boon-log.com>